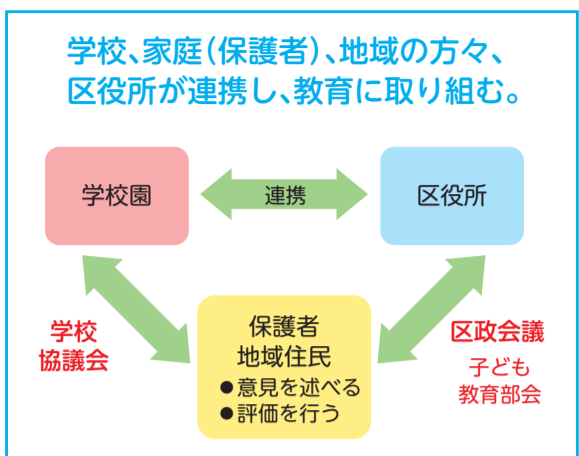


未来を担う子どもたちを育む学校教育

社会が多様化、複雑化していく中、子どもたちを取り巻く様々な課題に対応していくためには、これからの教育を学校だけの責任とするのではなく、学校、家庭、地域、区役所が連携し、一体で支えていくことが重要です。

住之江区では、学校を地域のシンボルとして、地域ぐるみでの教育に取り組みます。

また、地域の実情に合わせて、学力の向上に向けた取り組みを行うとともに、子どもたちや保護者の皆様へのサポートの充実に努めています。

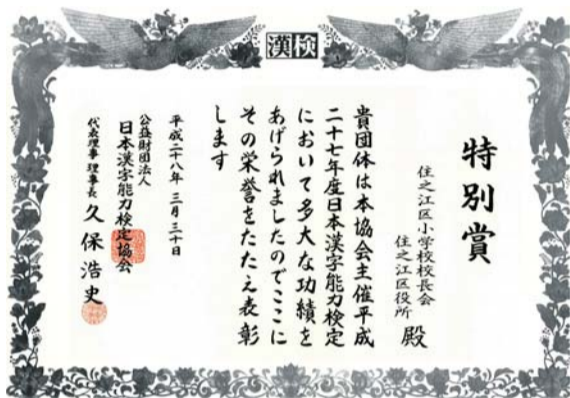


先進的教育にチャレンジ!

① まずは基礎から

漢検・英検受験の支援

全小学校と一部の中学校を対象に日本漢字能力検定を、全中学校を対象に実用英語技能検定の検定料を区が支援



平成27年度「全国検定振興機構理事長賞」において特別賞を受賞しました

する取り組みを行っています。この取り組みは、ただ単に子どもたちに検定に合格してもらおうという目的ではなく、検定合格という目標を掲げることによる学習意欲の向上を目的としています。

辞書引き学習

また、一部の小学校に国語辞典を導入し、辞書引き学習を行っています。辞書引き学習は、「知らなかった」「面白い」と思った「等の気づきのあった言葉



辞書引き学習で使った国語辞典はふせんだらけになる

にどんどんふせんを貼っていく学習方法で、子どもたち自身の気持ちを大切にしながら言葉の力をも身につけるとともに、疑問に思ったことを調べる習慣を身につけるといった目的があります。

② 個性を伸ばす!

大阪市では、子どもたち一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、コミュニケーション能力や自己理解能力・自己管理能力など、必要な基盤となる能力や態度を育成するとともに、勤労観・職業観等を育成するなど、子どもたちの発達段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育をすすめています。

区では、「ビデオ通話を用いて海外の子どもたちとリアルタイムで繋がったり、それぞれの国の紹介をし合ったり、国際協力



南港桜小学校の小学生がフィリピンの子どもたちとビデオ通話を使ってコミュニケーションを取りました

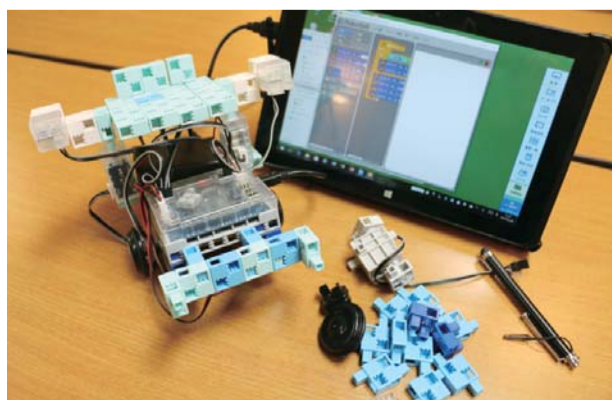
の経験者に講話をしてもらったりという計画をしています。これらにより、子どもたちが広い視野を持ち、日本のことや地域のことを見つめ直したり、自分の将来のことに思いを巡らせたりする機会になればと考えています。

③ 未来を先取り!?

パソコンやスマホを初めとしたICT機器は、現代において欠かせないものになっています。学校現場においても、新しい学びの姿を取り入れ、子どもたちの21世紀をたくましく生き抜く力を育むために、ICT環境の整備は必要であると考えています。区内の全小・中学校にタブレット端末を導入するとともに、区では、南港南中学校で平成29年度からロボットを用いたプログラミング教育を始めます。

これは、パソコン等で「障害物を感知したら右へ方向転換」「傾斜を感知したら止まる」などの命令をロボットに入力してロボットを操作するもので、ロボットにイメージ通りの動きをさせるために、まず、どのような命令が必要かを考え、その命令を効率良く順序立てて並べていくことで、論理的思考力が身につきます。

また、南港南中学校は、平成30年4月から、現在の南港緑小学校と南港渚小学校との3校で、施設一体型小中一貫校となる予定です。小中一貫校開設後は、小学校でもこれらのプログラミング教育を導入する予定です。小学校でのプログラミング教育は2020年から全国で必修となる計画で、住之江区ではそれに先駆けた実施となります。



プログラミング教材の一例。タブレット等に命令を入力してロボットを動かす

子どもたちは未来の担い手です。未来を活力ある社会とするためには、すべての子どもが家庭や地域で愛されながら、個性豊かに、たくましく育っていくことのできる環境を築いていくことが重要と考えています。その環境を、学校、家庭、地域、区役所が連携して作っていくよう、取り組み続けます。

サポートの充実

大阪市では、発達障がい等のある子どもたちに対する個別サポートや、社会福祉士等の資格を持った人材による子育て相談の受付、学校での専門スタッフ(スクールカウンセラー)による子どもたちからの相談受付など、子どもたちや保護者の方々の様々な面からサポートする取り組みを行っています。区では、相談件数が多いことなどからこれらのサポートスタッフを増員するなど、独自の取り組みをしています。このほか、平成29年度から、福祉的課題を抱える子どもやその保護者に対して、福祉施策や関係機関の適切な活用を図る「スクールソーシャルワーカー」が学校を巡回・派遣する取り組みを開始します。